



令和5年6月1日  
目黒区立駒場保育園園長

緑の木々や陽ざしのまぶしさが初夏を思わせる季節になりました。今年は更に気温が高くなる時期が早く、戸外遊びから戻ってくる子どもたちも「暑かったから汗かいちゃったね」という声が多く聞かれます。例年よりも早めに遮光ネットを張り、活動の前後には必ず水分補給をして熱中症対策をしています。

園庭の草花には蝶が、花壇や砂地にはアリやだんご虫がたくさん見られます。1歳児は園庭に出るとすぐに花壇に向かい草花をかき分けてはだんご虫探しに夢中です。タイヤに小さな青虫がいるのを発見した3歳児。タイヤの上を動く青虫をじっと見つめ観察しています。4歳児は見たことがないようなクモを見つけ「なんていう名前のクモかなあ」と言いながら虫の図鑑で調べていました。2歳児は駒場公園で見つけたアゲハ蝶の幼虫を持ち帰り、今は5歳児クラスで育てています。日に日に大きくなる幼虫に、葉っぱのごはんをあげながら「元気に大きくなってね」と蝶になる日を心待ちにしているようです。年齢ごとに楽しみ方は違いますが、それぞれに生命（いのち）の営みを肌で感じ、興味関心を広げている子どもたちです。

先日、待っていた稲が届き、5歳児が田植えをしました。土づくりから始めて、水を張った発砲スチロールの箱の前にしゃがみ、稲の束からひとつかみ取り分けるときの表情は真剣そのものです。「どろどろだ〜」「土の中がぐちょぐちょしてた」と泥の感触を楽しんでいるようでした。秋にはたくさんの稲穂が実ることを楽しみにしています。これからも各年齢なりに視覚、触感、匂い、味覚、そして葉が風にそよぐ音などの五感を使って、様々な活動を楽しんでいきたいと思ひます。

## 6月の行事予定

歯みがき指導（幼児）  
歯科検診（全園児）  
0歳児健診  
耳鼻科検診（幼児）  
眼科検診（全園児）

\*検診はいずれも9：30～です。  
結果はコドモンにて配信します。  
中旬 避難訓練・身体計測

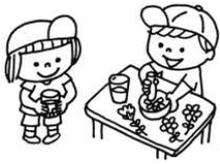
## 食育だより 1歳

ちゅーりっぷ組でオクラとピーマンを育てることにしました。テラス前にプランターを置くと、なんだろうと覗いています。「これはピーマン」「これはオクラ」と苗を指さして伝え、同じように「ピーマン」「オオラ（オクラ）」と言ってそっと触っています。まだ葉っぱだけなので、不思議そうに「はっぱ」と教えてくれます。「おおきなあれってみんなでお水あげようね」と声をかけ、水を入れたペットボトルを渡すと、目をきらりとさせて水をあげています。これからぐんぐん育っておいしそうな実がなってくることをみんなで期待して、成長を見守っていきたくと思ひます。



## 5歳 遠足

- 光っているように見えるクラゲを見ながら「虹みたい」「すごい、マジックみたい」と言っていました。
- ゴムの木を触りながら「これがびよーんって伸びるの？」と話していました。



## 《園庭・戸外遊びの様子》



今月は、2歳・3歳・4歳児クラスの様子をご紹介します。

### たんぽぽ組（2歳児）「春の自然を感じて」

「お散歩行くよ」と声をかけると「どこいくの?」と楽しみにしています。友達と手を繋いで歩くことにも少しずつ慣れてきました。公園に着くと「よーいどん」の合図で一斉に走り出す子どもたちです。保育士と一緒に先頭を走って「いちばん」と喜ぶ子や、探索をしながらゆっくりついてくる子と、一人ひとり思いのままに楽しんでいます。探索をしている間に一匹の蝶々を見つけると、みんなで「まで〜」と一生懸命追いかけます。ひらひらと空を飛ぶ様子に興味津々な姿が微笑ましいです。また、たんぽぽの綿毛を「ふーっ」と全て飛ばした後に残る花床を見て「これなに?」と保育士に聞いたり、自然物に興味を持って関わる姿が見られました。春の自然を感じながら、のびのびと体を動かして遊んでいます。



### さくら組（3歳児）「砂山づくり」

園庭に出ると「山作りたい」と、数人の子どもたちがスコップとシャベルを持って砂場に集まり、山作りが始まります。「固い山作ってトンネルも作りたい」という思いはみんな一緒のようで、すぐにスコップで砂を盛り始めます。「白砂はダメだよ」「崩れちゃうから」と、何度かの失敗から学んだことを友達にも伝えています。山が大きくなってくると、今度は一斉に手の平で固めていきます。砂が固くなる前にトンネルを掘り始めるのですが、掘っている途中で山が崩れてしまうと「あ〜あ」と残念そうに言いながらも、また砂を盛り固めていきます。「トンネル掘っても大丈夫だよ」と保育士が呟くと、シャベルを持って穴を掘り始めます。ようやくできあがったトンネルに長くつなげた汽車を走らせ、「やったー」と大喜びです。何回も汽車を走らせて楽しんでいます。



### すみれ組（4歳児）「ルールのある遊びの中で」

園庭や公園の広場では「〇〇する人、この指と〜まれ」と声をかけあい、ルールのある遊びを楽しんでいます。最近特に好きなのは転がしドッジボールです。回を重ねるごとに、ボールをよく見て、転がってきたボールから逃げたり、内野の子どもたちに向かってボールを転がすのが上手になってきました。また、最後まで内野に残ったらチャンピオンになれるというルールを作ったことで「チャンピオンになりたい」という気持ちから、より真剣に取り組むようになりました。その分、ボールに当たってしまうと「チャンピオンになりたかった」と悔し涙を流すこともあります。「悔しかったね」「次、頑張ろうね」と友達や保育士に声をかけられると、涙を拭いて気持ちを切り替えようとしています。さくら組と一緒に遊んだ時は「こうするんだよ」とルールを教えようとしていたり、ボールの取り合いになると「いいよ」と譲ったり、年下の子を思いやる姿も見られています。

